

科目ナンバリング		U-LAS70 10001 SJ50					
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：日本近世地域史入門 ILAS Seminar :Introduction to Japanese Early Modern Regional History			担当者所属 職名・氏名	文学研究科 准教授 三宅 正浩		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール (対面授業科目)
開講年度・ 開講期	2024・前期	受講定員 (1回生定員)	5 (5) 人	配当学年	主として1回生	対象学生	全学向
曜時限	火5	教室	文学部陳列館2階三宅研究室 (本部構内)			使用言語	日本語
キーワード	日本史 / 日本近世史 / 地域史 / 史料						
[授業の概要・目的]							
この授業では、日本近世（概ね江戸時代に相当）における地域の歴史を調査・研究するための方法論を学ぶ。各自で特定の地域を選んで調査・研究し、成果を発表してもらうことになる。 日本近世史において、地域から考える視角は非常に重要である。日本近世は、全国各地で膨大な文書が書かれて蓄積された時代であり、現在まで、未発見のものも含めて大量の古文書が全国各地に伝来している。国家史や政治史といった中央の歴史からだけではなく、身近な地域の人々の有り様から歴史を考えることも大切である。地域の視点から、近世社会の特質とその歴史的展開を考え、全体像を見通す方法論を学び、楽しんでもらいたい。故郷の歴史を探究するもよし、全く縁のない地域を取り上げるのもまた、様々な魅力があるだろう。							
[到達目標]							
・日本史学の基礎的な調査・研究の方法を学ぶ。 ・地域の視角から歴史を考える方法論と意義を学ぶ。							
[授業計画と内容]							
基本的に以下のプランに従って授業を進める。ただし、受講生の興味関心や調査・研究の進度に応じて、順序や内容を変更することもある。 第1回 授業の進め方の説明 第2～5回 地域の選定と参考文献・史料の確認 第6～10回 途中経過報告会 第11～14回 最終成果報告会 第15回 総括討論とフィードバック 授業は、全員に数回ずつ報告してもらいながら進める。報告に際しては十全な事前準備が必要となる。また、他者の報告を聞いて討論することになるので、積極的な発言が求められる。調査・研究成果は、レポートにまとめて提出してもらう。							
[履修要件]							
次の要件を満たすこと。 ①高等学校等で日本史Bを履修したこと ②日本近世史に強い関心があること							

ILASセミナー：日本近世地域史入門(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー：日本近世地域史入門(2)

[成績評価の方法・観点]

調査・発表（40点）、討論への参加（10点）、期末レポート（50点）

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）

授業中に紹介する

各自の研究テーマに合わせて適宜紹介する。

[授業外学修（予習・復習）等]

選択した地域・テーマにもとづいて調査・研究を進め、担当日に間に合うように授業で発表する準備をすること。

[その他（オフィスアワー等）]

授業を実施する場所（研究室）の収容力の関係から、受入人数は5人に限定する。

初回の授業で授業の進め方を説明し、2回目の授業で担当地域を決めるので、必ず出席すること。